

そうだ、きさいち植物園に行こう！

Let's go Kisaichi botanical garden



11月



キダチダリア

- メキシコ・コロンビア原産でキク科ダリア属の多年草
- 「皇帝ダリア」とも呼ばれ、世界各地で栽培される
- 花つきがよく、紫がかったピンクの花を咲かせる

11月 12月



フザクラ

- バラ科でヤマザクラとマメザクラの自然交雑種
- 翌年1月始めまで、小さな白い花をつける
- 群馬県藤岡市の「三波川冬桜」は特に有名で、国の天然記念物に指定されている

12月



マルバノキ

- 本州中部、四国、広島山地に見られる落葉低木
- 葉は丸く、秋の紅葉は美しい。落葉の頃に黒みがかった紅色の花
- 語源は名前のとおり葉の形が丸いから。花の色から「ベニマンサク」とも呼ばれる



チャノキ

- 中国原産の常緑低木。栄西が1191年に中国から持ち帰り、緑茶用に各地で栽培される
- 直径2.5センチ、花びらが5枚の白い花を下向きに咲かせる
- 茶葉には、新葉を2〜3枚摘み取って使うことが一般的

※気象状況により開花時期は前後します。現在の開花状況は植物園までお問い合わせください。

こぼれ話



毎木調査の様子

植物園では、1978年から、木の^{きようこう}高さ^{きようこう}と胸高直径(人間の胸の位置くらいを基準とした木の直径)を測定する「^{まいぼく}毎木調査」を行っています。

対象は、園内の11樹林を中心に、日本産樹木見本園など約3,600本以上を測定します。

木の^{じゆこうけい}高さは15mもある釣り竿のように伸ばして使う^{じゆこうけい}樹高計という道具を使って測ります。胸高直径は、大きなノギスで木の太い部分の直径と、細い部分の直径の2種類を測ります。

間隔は5年おき、3〜4エリアほどを12月〜翌年2月の冬に行います。これは、この時期の落葉樹は葉が落ちていたため、木の^{じゆこうけい}高さが測りやすいからです。

来園の際、写真のような作業があれば、それは園の風物詩の一つです。冬の澄み切った植物園に、ぜひお越しください。



樹高計



大きなノギス

大阪市立大学理学部附属植物園 (愛称：きさいち植物園)

- ☎ 891-2059 ● 交野市私市 2000 (私市駅徒歩 6分) ● HP <https://www.sci.osaka-cu.ac.jp/biol/botan/>
- 開園時間 9:30 ~ 16:30 (入園は 16:00 まで) ● 休園日 月曜日 (祝休日の場合は開園)
- 入園料 大人 350 円 / 中学生以下無料 ● 駐車料 普通車 500 円 / マイクロ 1,000 円
- ※ 65 歳以上の市民は「植物園メイト」に登録すると入園料が無料になります。



星ノ町 レジェンド

片山長三は、明治27年(1894年)に星田村で生まれました。明治41年(1908年)に四條畷中学(現在の四條畷高校)に入学し、授業で石鏃(石の矢尻)を見せられたとき、「家の畑にもある」と自ら石器を採取して学校へ寄付したことが、考古学の道を歩むきっかけとなりました。

また、大正2年(1913年)に教員を養成する天王寺師範学校に入学し、赤松麟作洋画研究会ではデッサンを学び、自らも勉学に励んで、文部省検定(日本画・洋画)に合格し、美術教員の道にも歩みます。

当初は北河内の小・中学校で子どもたちに美術を教え、昭和19年(1944年)に母校の四條畷中学に転勤してからは、美術・考古学の両クラブを率いて、北河内地区の遺跡発掘等で大きな成果を挙げていきます。特に、昭和32年(1957年)に行われた神宮寺遺跡の発掘では、北河内で最初となる旧石器を発見し、学会の注目を集めました。

また、遺跡調査に参加した人たちから乞われての指導を通じ、交野考古学会(現在の交野古文化同好会)が設立されました。長三の実直な人柄や真摯な姿勢は多くの人を惹きつけ、後に長三の跡を継いで多くの交野の歴史に関する著書を記す、奥野平次など、多くの後進者が育っていきました。

これらの活動から、当時の交野町は歴史に関する第一人者として、町の歴史を記す「交野町史」の執筆を依頼します。長三はこの執筆に情熱を持って取り組み、昭和38年(1963年)、計1,600ページ以上にもわたる町史を完成させました。



交野町史を執筆した郷土史家

かたやまちょうそう
片山長三

1894年—1988年

交野町からは、この執筆にあたり報酬の話がありましたが、長三は「いちばん楽しいことをさせてもらっている」と、報酬を辞退し、その思いを「このわざに死なば本懐ふるさとの交野のまちのいしずえとして」という短歌に残していることからその人柄がうかがえます。

また、長三は、その歴史に関する知識と、美術教師としての技術を生かし、昔の町並みを想像して描く「歴史画」を多く残しています。特に私部の山野酒造に残されている「白鳳盛春の交野条里田」は保存の状態も良く、飛鳥時代の交野が目の前にあるかのような色鮮やかな作品です。

戦中・戦後の歴史資料が乏しい時代に、北河内地域の歴史研究を進めるとともに、画家、教員、郷土史家として、多くの作品を残し、後進を導いた功績は今も色あせることはありません。



神宮寺遺跡発掘現場(右は奥野平次)



「白鳳盛春の交野条里田」(山野久幸氏所蔵)